KCJS30　2019 年春学期　日本語 E クラス

担任 (coordinating instructor)：中村伊都子（なかむら　いつこ）

オフィス／電話番号／メール： F203（扶桑館）／075-251-4996／in2008@columbia.edu

オフィスアワー：必要に応じて（事前に連絡すること）

副担任 (Sub-instructor)：　西俣美由紀（にしまた　みゆき）　　mf2249@columbia.edu

授業時間：月～金　9:30-10:30 & 10:40-11:30

教室：F213

＜KCJS 全体の目標＞

The objective of KCJS's Japanese Program is to enhance the student's communicative competence and to enable professional and personal interaction with members of Japanese society in ways that are culturally readily acceptable. In particular, a KCJS student will come to:

1. Understand the intentions of others when Japanese is spoken;
2. Understand the intentions of others when written materials of various genres and media are presented;
3. Control the use of Japanese expressions, both spoken and written, in order to fit the socio-cultural settings and purposes of communication;
4. Expand the modes of communication used to include such genres as formal presentations, negotiations, projects, the organization of events, and their follow-up.

＜このコースでの今学期の目標＞

１）日本語を現実の中で活用することにより、上級・上級を目指す学生としてふさわしい運用能力及び社会言語能力を養うこと

①詳しく説明・描写したり、詳しく叙述したりできるようになる
②相手に納得してもらえるような裏付けのある意見を述べることができるようになる
③何かについて具体的・抽象的な視点から論じることができるようになる
④相手や場面に合わせ適当な言葉遣いができるようになる

２）身近なことから社会・政治問題まで幅広い話題を扱えるよう、語彙力・表現力をつける

３）多文化理解を深める（日本文化、クラスメートの国の文化を学ぶことで、自国の文化にも光を当てる）

＜目標達成のための発想の転換（てんかん）＞

１）「教わる」から「学ぶ」へ、「知識の集積」から「活用」へ

−日本語を学ぶことより日本語で何かを学ぶことに力点を置く
−日本語を現実の中で生かす
−“突（つ）きあげ”--常に自分に言語的チャレンジを課す（難しいと感じることを難しいと感じる形でする）
−五感で学ぶ（視覚（しかく）・聴覚（ちょうかく）・触覚（しょっかく）・味覚（みかく）・嗅覚（きゅうかく））
−観察から学ぶ

２）自分をとりまく環境全てが学びの場、いつでもどこでも学習。自分をとりまく全ての人、物が「先生」

−人から学ぶ（聞く、質問する、真似（まね）る）
−人と学び合う（知識を共有する）
−いつでもどこでも主体的に、積極的な姿勢で学ぶ
−いつでもどこでも誰とでも日本語を使う

３）間違いは学びのチャンス、間違いからしか学べない

−間違いを恐れず、どんどん間違う！
−言語的にチャレンジして、どんどん間違う
−試行錯誤（trial & error）を通して学ぶ

＜目標の達成方法＞

１）学びの場
・ E クラスプロジェクト「ソーシャルデザインの視点から社会的課題に取り組もう！」
・ 「先生になろう！」（先生になって、自分の選んだ読み教材をクラスで扱う）
・ 地域参加型プロジェクト（Community Involvement Project）
・ 日本語アワー
・ ホストファミリーや友達、会話パートナーへの聞き取り調査
・ ゲスト講師による講義
・ 多読の時間
・ （オプショナル）戸田さんが企画する日本人学生とのイベント
・ （オプショナル）会話パートナー

２）学びの姿勢
・ “突きあげ”
・ 日本語アワーの活用
・ 教師生徒間の密なフィードバック

＜成績うちわけ＞

授業（30%）	出席・参加（準備、積極性）	15%
	宿題	15%
小テスト ・試験（35%）	小テスト（漢字、単語）	10%
	文法・語彙試験、中間試験、期末試験	25%
プロジェクト（35%）	地域参加型プロジェクト（CIP）	5%
	プロジェクト・レポート・期末発表	30%

100 – 94.0 A	93.9 – 90.0 A-	89.9 – 87.0 B+	86.9 – 83.0 B
82.9 – 80.0 B-	79.9 – 77.0 C+	76.9 – 73.0 C	72.9 – 70.0 C-
69.9 – 67.0 D+	66.9 – 63.0 D	62.9 – 60.0 D-	59.9 – F

＜出席・参加点の評価基準＞

授業 1 回につき 10 点満点。授業中の参加度と、パフォーマンスの質により、0.5 点刻みで評価する。遅刻の場合、その度合いに応じて、出席点・参加点が減点される。成績を Corseworks で確認し参考にすること。

10 点満点の場合：

①時間通りに教室に来ている
②積極的に参加している
③パフォーマンスの質がよい
✔予習をし、何が分かって、何が分からないかを把握した上で授業に臨んでいる

✔準備をし、自分への言語的チャレンジが見られる
✔直されたことを直そうとする努力が見られる
✔習ったことを積極的に使っている
✔復習し、分からなかったところが分かるようになっている

		参加度			
		◎	○	△	×
パフォーマンスの質	◎	10	9.5 9	8.5 8	7.5 7
	○	9.5 9	8.5 8	7.5 7	6.5 6
	△	8.5 8	7.5 7	6.5	6
	×	7.5 7	7	6	5
欠席		0			

＜小テスト＞

１．ほぼ、毎日９時半から９時４０分の間にクラスで行なう。遅刻をしても時間の延長（えんちょう）なし。
２．漢字テスト：単語テストがない日は、毎日「意味」と「読み＆書き」の小テストを受ける。
　『Kanji in Context』から赤字のものが出題される。
３．漢字まとめテスト：漢字テストの３、４つ分から出題される。
４．単語テスト：クラスで読んだ読み物などから、覚えたいものをクラスで選ぶ。

＜決まりごと＞

１．遅刻と欠席
・欠席する時は、担任に電話かメールで必ず連絡すること。075-251-4996／in2008@columbia.edu
・遅刻と欠席は、授業ごとに数える。（例　１日休んだら２回欠席）
・１分でも遅れたら、その授業は「遅刻」の扱い。20 分以上遅れたら、「欠席」となる。

２．出席・参加点
・欠席の場合は、０点になる。
・遅刻の度合いに応じて、出席点・参加点が減点される。

３．欠席した日の小テストや試験
・欠席した日の小テストは後で受けることはできない。試験は、やむをえない事情で欠席した場合だけ、後で受けることができる。
・私用の旅行は、やむを得ない事情ではないので、試験は受けられない。

４．学期末の成績の調整
・欠席した当日までに連絡があった場合のみ、学期末に４回分の出席・参加点を落とす。

・１度も欠席しなかった場合は、出席・参加点の最も低い点数を４回分落とす。
・小テストの最も低い点数を２回分落とす。

５．宿題
・締切（つまり、１時間目開始時）までに宿題を出す。締切を過ぎた場合は、内容は見るが、点数はなし。
・きちんと宿題をしていないことが明らかな場合は、未完成と見なし、点数はなし。
・重要な点を間違えている場合は、試験前の締切日までにやり直しをする。やり直しを提出しない場合、その宿題の点数は 7 割となる。
・宿題は、自分一人の力ですること。他の人のを見たり、他の人の力を借りない。

６．その他
・他のアカデミックなルールに関しては、以下のページを読むこと。http://www.college.columbia.edu/ccschonorcode
・教室では食事は不可。国際交流ラウンジか外に行くこと。

＜E クラス遠足日＞

必ず空けておいてください。そのかわり、振替で授業を３日分休みにします

2/3（日）大阪コリアタウン＆クロスベイス
2/13 or 2/20（水）午後　京都・東九条
3/23（土）大阪コリアタウン・クロスベイスで子供達向けの体験活動実施